

§ B V S - 4 隊集会プログラム

第4日 14:30～15:30 (60分)

<p><u>目 標</u></p> <p>参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 隊集会プログラム（実施計画書）を作成できる。 2. プログラムの中で進歩制度を活用できる。
--

指導上のねらい

1. 隊集会プログラム（実施計画書）の作成を通じて、隊集会プログラムの立案過程を理解させる。
2. 隊集会実施計画書の必要性について理解させる。
3. 木の葉章、小枝章を効果的に使用することの大切さを理解させる。
4. プログラム会議、事前の下見の大切さを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ビーバースカウト隊リーダーハンドブック（2017改訂版）
- ・ハンドアウト「年間プログラム」（§3で使用したスタッフが作成したもの）
- ・ワークシート「隊集会実施計画書」

セッション展開

時間	セッション内容	指導上の留意点・準備品・支援
14:30	<p>1. 導入・・・・・・・・・・・・・・・・（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このセッションで何を行うか見通しをもたせる。 ○ 年間プログラムに基づいて隊集会プログラム（隊集会実施計画書）が作られることを確認する。 ○ 隊集会実施計画書の作成手順を確認する。 ・ 隊集会実施計画書はプログラム会議の中で、役割分担、資材準備、保護者への連絡までできるように細部まで計画する。 	
14:35	<p>2. 実習・・・・・・・・・・・・・・・・（50分）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 「隊集会実施計画書」作成の流れを説明。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「年間プログラム」のなかから「おちばがおどる」を提示。 ・ 集会日、集会場所、時間、活動の概要を伝える ・ 下見を実施しないため、下見の重要性について説明を行う ② ワークシートを配布し、番号4全体の活動の部分を中心に作成。 	<p>年間プログラム ワークシート</p>

14:40	<p><作業を進めるに当たっての留意点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で使用する隊集会実施計画書様式にはセレモニー、記章授与などがすでに記載されているので、それぞれの実施方法・ねらいについて説明する。 ・木の葉章、小枝章を効果的に授与することを考慮させる。 ・隊集会がスムーズに展開できるように、しっかりと話し合いながら作成する。 	
15:10	<p>3. 評価と振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○代表者が発表を行う（観点を明確にして簡潔行うように指示する） ○進歩制度が活用され、活動への励ましが効果的に行われているか（スカウトが自分への自信や達成感を感じることができるように有効活用されているか）確認する。 	
15:25	<p>4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）隊集会プログラムは、隊長一人で作るものではなく、プログラム会議という場でビーバー隊指導者、補助者、団担当者など多くの人々が集まって作られていくものであることに気づかせる。 （2）隊集会実施計画書は単なるタイムスケジュールではなく、スカウトの進歩・成長に寄与するものであることを強調する。 （3）隊集会実施計画書があることで、関わる指導者の共通理解がとれ、安全に活動ができることにも繋がることを理解させる。 	